

第2章 町の地域福祉をめぐる現状と課題

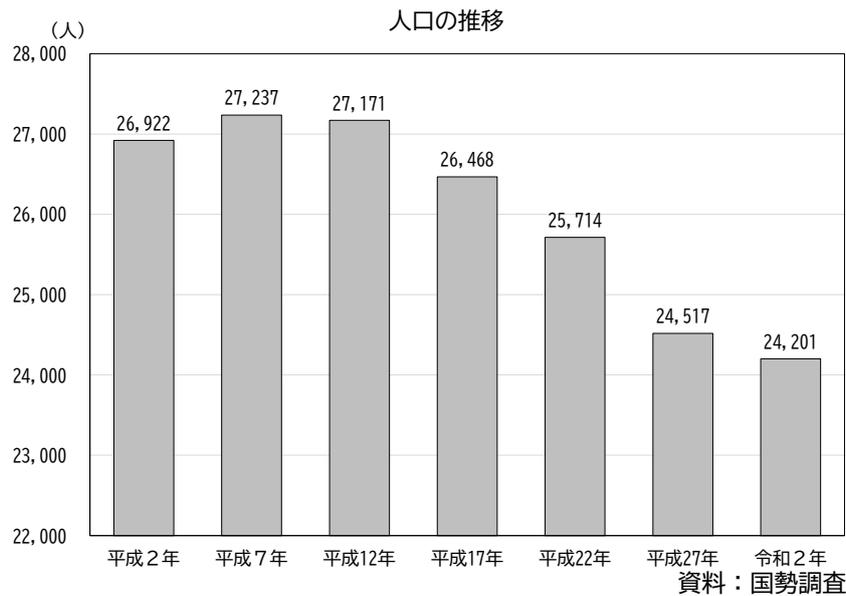
1 境町の概要

(1) 人口・世帯と高齢化等の状況

①総人口、世帯、人口構成（年齢3区分）

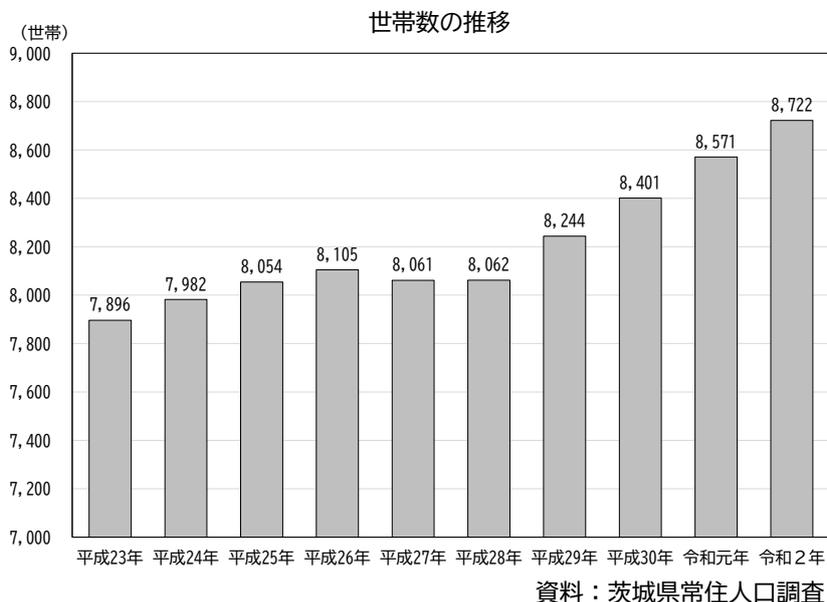
～人口は年々減少傾向、世帯数は増加傾向を示しており、世帯が小規模化している～

本町の総人口は、平成7年に最多となって以降、年々減少傾向となっており、令和2年の国勢調査では24,201人となっています。平成7年（27,237人）と比較すると、11.15%の減少となっています。



世帯数については、平成23年の7,896世帯から、令和2年は8,722世帯へと10.46%増加しています。平成27年に一時的に減少するものの、近年は増加傾向となっています。

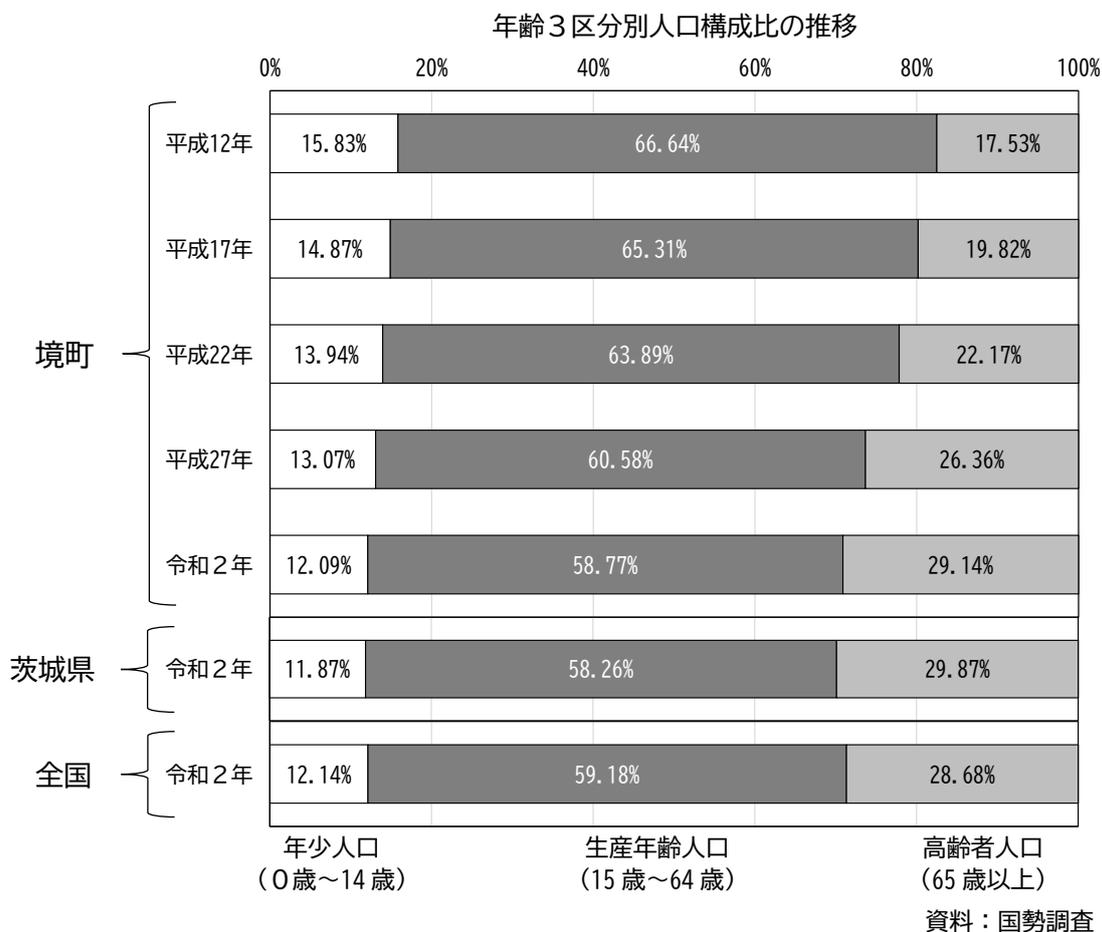
1世帯当たりの平均人員数は、総人口が減少し、世帯数が増加しているため、平成27年の3.04人から令和2年の2.77人へと減少しています。世帯の小規模化が進行していることがうかがえます。



本町でも少子高齢化は着実に進み、年齢3区分別人口構成は年少人口（0～14歳）の割合は年々減少し、高齢者人口（老年人口、65歳以上）の割合は年々増加する傾向が続いています。

令和2年では、年少人口12.09%、生産年齢人口（15～64歳）58.77%、高齢者人口29.14%となっています。

全国・茨城県の結果と比較すると、年少人口は全国をやや下回り、茨城県をやや上回っています。高齢者人口は、逆に、全国を若干上回り、茨城県をやや下回っています。



高齢者人口等の推移 (人)

境町	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
総人口	24,482	24,396	24,324	24,255	24,123
高齢者人口	6,508	6,638	6,702	6,820	6,920
前期高齢者人口 (65歳～74歳)	3,452	3,565	3,623	3,673	3,711
後期高齢者人口 (75歳以上)	3,056	3,073	3,079	3,147	3,209
高齢化率	26.58%	27.21%	27.55%	28.12%	28.69%

資料：茨城県常住人口調査 各年1月1日

②一般世帯の構成

～県と比較し3世代同居が多いが、年々減少している～

世帯構成では、茨城県と比較し「その他の親族世帯（3世代の同居世帯）」の割合が9.24%多いものの、年々減少しています。また「夫婦のみ」、「非親族及び単独世帯」の割合が増加しています。

一般世帯の構成

区 分	境町			茨城県
	平成22年	平成27年	令和2年	令和2年
核家族世帯	52.39%	53.29%	52.94%	56.31%
夫婦のみ	14.92%	16.34%	17.02%	20.83%
夫婦と子ども	28.50%	27.44%	26.30%	26.19%
ひとり親と子ども	8.97%	9.50%	9.62%	9.29%
その他の親族世帯	28.49%	24.60%	19.38%	10.14%
非親族及び単独世帯	19.13%	22.11%	27.69%	33.56%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

資料：国勢調査

(2) 高齢者、障害のある人等の状況

①高齢者、要支援、要介護認定者の状況

高齢者のいる一般世帯の割合は年々増加傾向となっており、平成27年に過半数を超えてから、令和2年も50.29%と過半数を超えています。

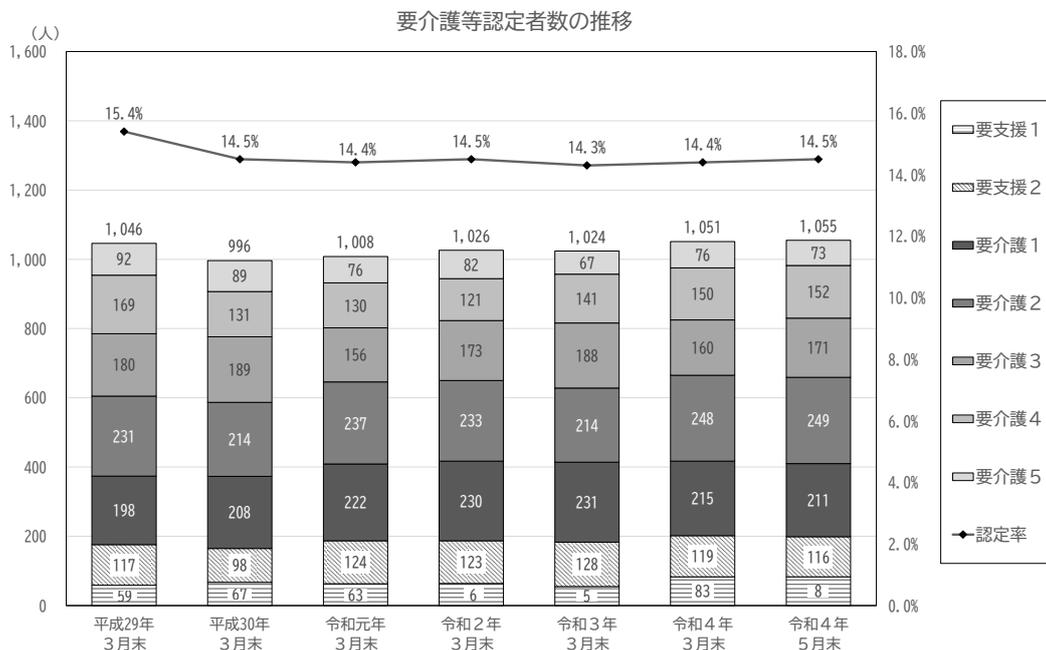
また、高齢者単身世帯（ひとり暮らし）も年々増加傾向となっており、高齢者夫婦世帯は、世帯数は増加していますが、割合は減少しています。

高齢者のいる世帯の状況

	平成22年	平成27年	令和2年
一般世帯数 (A)	7,923	8,061	8,722
高齢者のいる世帯 (B)	3,728	4,143	4,386
比率 B/A	47.05%	51.40%	50.29%
高齢者単身世帯 (C)	424	596	738
比率 C/A	5.35%	7.39%	8.46%
高齢者夫婦世帯 (D)	546	882	915
比率 D/A	6.89%	10.94%	10.49%

資料：国勢調査

要支援・要介護認定者総数については、平成30年3月末の時点で減少したものの、そこからほぼ増加傾向となり、令和4年5月末の時点では1,055人となっています。



資料：地域包括ケア「見える化」システム

②障害者手帳所持者の状況

各障害者手帳の所持者数については、身体障害では年々増減を繰り返していますが、令和4年度は過去6年間で一番少ない人数となっています。知的、精神障害では、ほぼ毎年増加しています。3障害の合計人数は、平成29～令和4年度の間各年度で順に、972人、1,076人、1,108人、1,093人、1,135人、1,125人となっており、令和3年度以降は1,100人前後で推移しています。

障害者（児）数（障害者手帳所持者数）の推移

単位：人

	身体障害者 合計	身体障害・詳細障害種別内訳					知的障害者 合計	精神障害者 (手帳所持者) 合計
		視覚障害	聴覚・ 平衡機能障 害	音声・言 語・ そしやく 機能障害	肢体不自由	内部障害		
平成29年度	726	38	52	6	404	226	174	72
平成30年度	749	40	52	6	404	247	215	112
令和元年度	765	42	60	5	402	256	217	126
令和2年度	727	42	58	7	384	236	231	135
令和3年度	742	42	54	12	388	246	248	145
令和4年度	715	41	50	13	359	252	260	150

注：各年度4月1日現在

資料：境町社会福祉課

2 町民アンケート調査の結果

本町が、地域における近所づきあいの程度や地域との関わりなどについて調査した「町民へのアンケート調査」の結果からみた町の現状等について、要点を抜粋して取りまとめました。

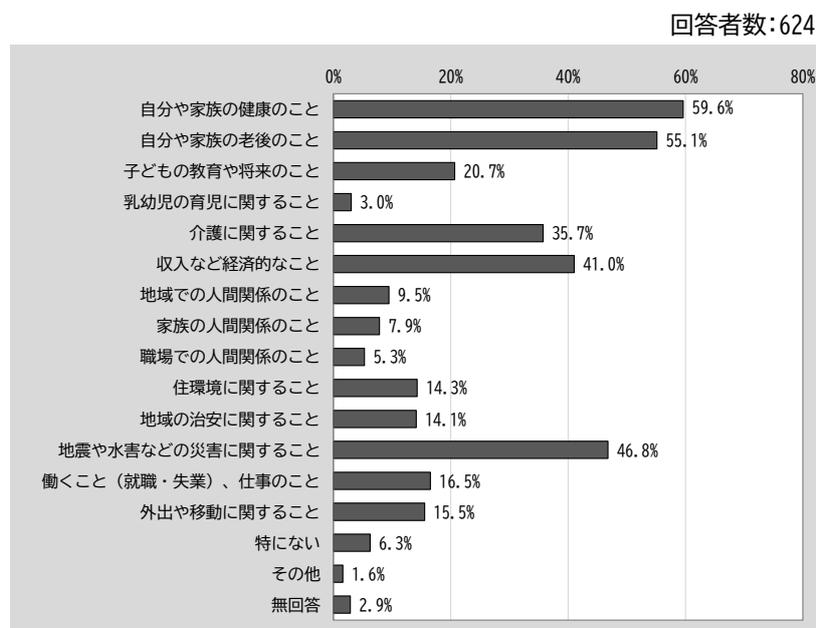
アンケート調査の実施概要

・対象者	町内在住の18歳以上の住民
・対象者数	1,500人（無作為抽出）
・調査方法	郵送による配布・回収
・実施時期	令和4年（2022年）7月22日（金） ～令和4年（2022年）8月10日（水）
・回収結果	
有効回収数	624件
有効回収率	41.6%

（1）地域生活について

①日常生活における不安や悩み

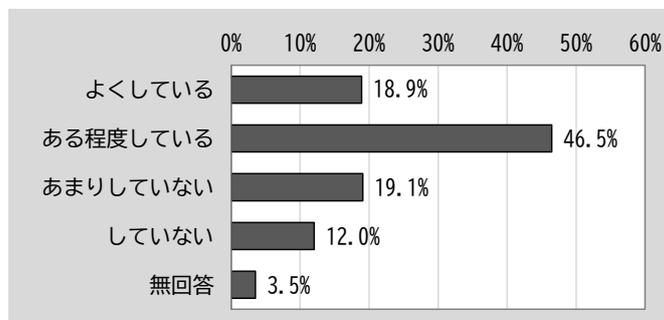
日常生活で日頃不安に思っていることや悩みを感じていることについては、「自分や家族の健康のこと」が59.6%と最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」が55.1%、「地震や水害などの災害に関すること」が46.8%となっています。



②近所づきあい

近所の人とのおつきあいの程度（地域行事などへの参加を含む）については、「よくしている（18.9%）」、「ある程度している（46.5%）」を合わせた『している（計）』が65.4%、「あまりしていない（19.1%）」、「していない（12.0%）」を合わせた『していない（計）』が31.1%となっています。

回答者数:624

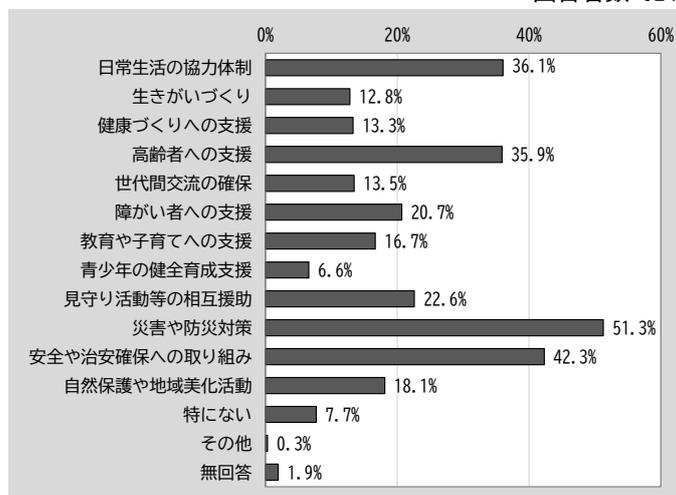


③「地域」としての役割や支えあい・助け合いに期待すること

「地域」としての役割や支えあい・助け合いに期待することについては、「災害や防災対策」が51.3%と最も多く、次いで「安全や治安確保への取り組み」が42.3%、「日常生活の協力体制」が36.1%となっています。

地区別でみると、森戸地区では「安全や治安確保への取り組み」が最も多く、特徴的となっています。

回答者数:624

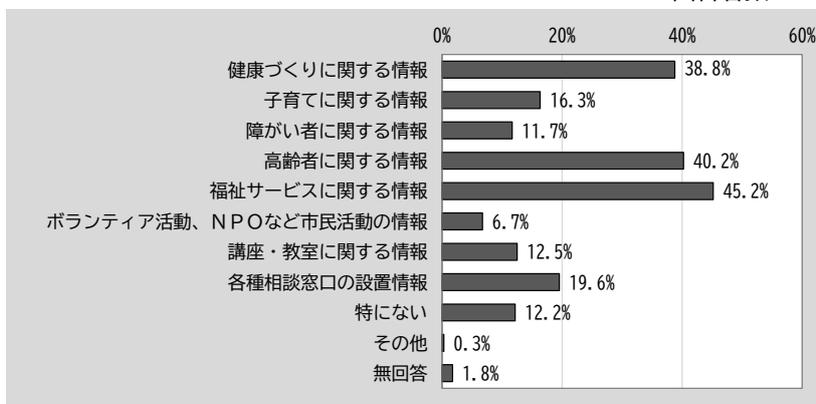


	日常生活の協力体制	生きがいづくり	健康づくりへの支援	高齢者への支援	世代間交流の確保	障がい者への支援	教育や子育てへの支援	青少年の健全育成支援	見守り活動等の相互援助	災害や防災対策	安全や治安確保への取り組み	自然保護や地域美化活動	特にない	その他	無回答
全体	225 36.1%	80 12.8%	83 13.3%	224 35.9%	84 13.5%	129 20.7%	104 16.7%	41 6.6%	141 22.6%	320 51.3%	264 42.3%	113 18.1%	48 7.7%	2 0.3%	12 1.9%
境地区	78 36.8%	28 13.2%	27 12.7%	74 34.9%	30 14.2%	47 22.2%	40 18.9%	21 9.9%	50 23.6%	115 54.2%	87 41.0%	39 18.4%	18 8.5%	0 0.0%	3 1.4%
長田地区	45 34.4%	17 13.0%	14 10.7%	38 29.0%	19 14.5%	25 19.1%	27 20.6%	7 5.3%	30 22.9%	70 53.4%	55 42.0%	21 16.0%	10 7.6%	2 1.5%	4 3.1%
猿島地区	35 35.7%	13 13.3%	13 13.3%	38 38.8%	10 10.2%	19 19.4%	10 10.2%	3 3.1%	19 19.4%	45 45.9%	42 42.9%	19 19.4%	7 7.1%	0 0.0%	1 1.0%
森戸地区	41 38.0%	13 12.0%	16 14.8%	42 38.9%	14 13.0%	19 17.6%	13 12.0%	5 4.6%	28 25.9%	47 43.5%	49 45.4%	21 19.4%	7 6.5%	0 0.0%	3 2.8%
静地区	22 35.5%	6 9.7%	11 17.7%	28 45.2%	8 12.9%	17 27.4%	12 19.4%	5 8.1%	12 19.4%	37 59.7%	23 37.1%	9 14.5%	6 9.7%	0 0.0%	0 0.0%
無回答	4 30.8%	3 23.1%	2 15.4%	4 30.8%	3 23.1%	2 15.4%	2 15.4%	0 0.0%	2 15.4%	6 46.2%	8 61.5%	4 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	1 7.7%

④福祉や健康に関する情報

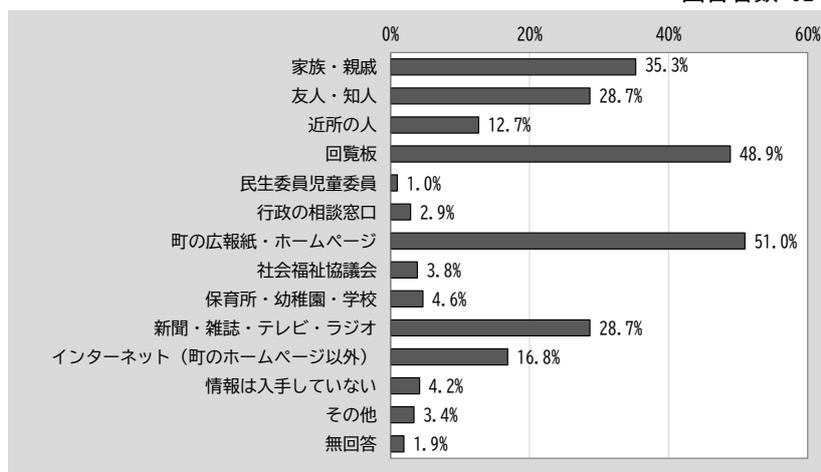
福祉や健康についてどんな情報が知りたいかについては、「福祉サービスに関する情報」が45.2%と最も多く、次いで「高齢者に関する情報」が40.2%、「健康づくりに関する情報」が38.8%となっています。

回答者数:624



また、福祉や健康に関する情報をどこから入手しているかについては、「町の広報紙・ホームページ」が51.0%と最も多く、次いで「回覧板」が48.9%、「家族・親戚」が35.3%となっています。

回答者数:624



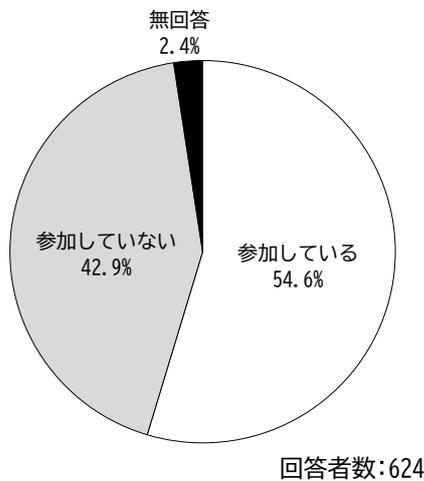
(2) 地域活動・ボランティアについて

①地域活動への参加状況

地域での活動に参加しているかについては、「参加している」が 54.6%、「参加していない」が 42.9%となっています。

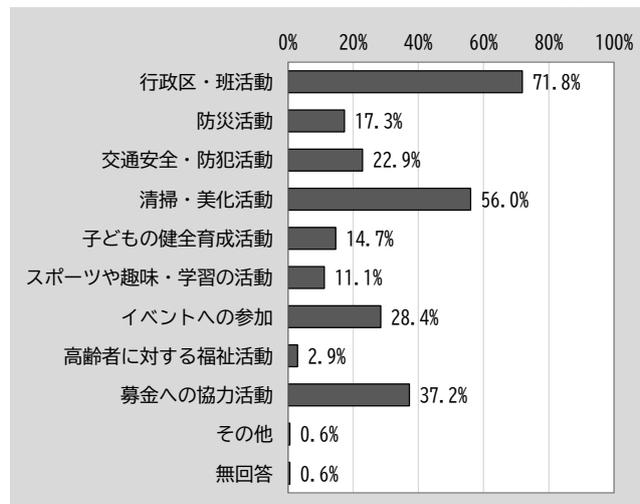
参加が多い地域活動は「行政区・班活動」、「清掃・美化活動」となっています。

また、参加していない理由としては、「仕事が忙しく、参加する時間が取れないから」が 41.4%と最も多く、次いで「活動の内容や参加方法がわからないから」が 24.3%、「特に理由はない」が 23.1%となっています。



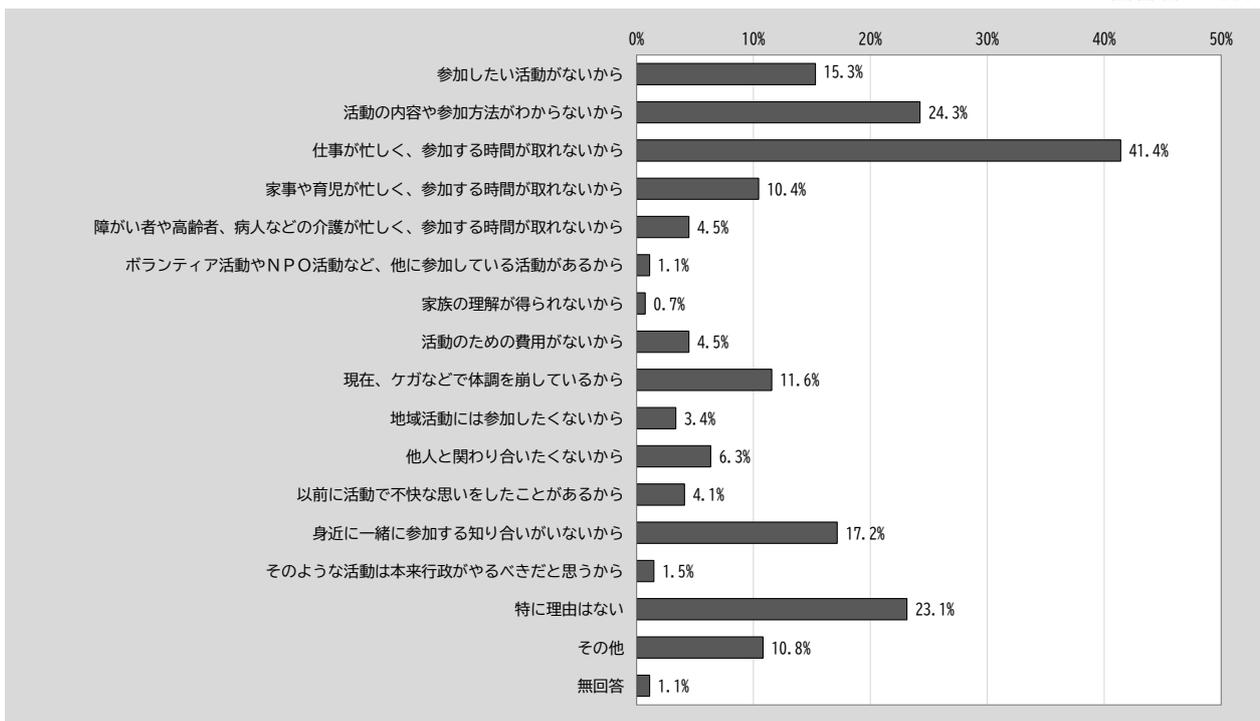
《参加している地域活動》

回答者数: 341



《活動に参加していない理由》

回答者数: 268

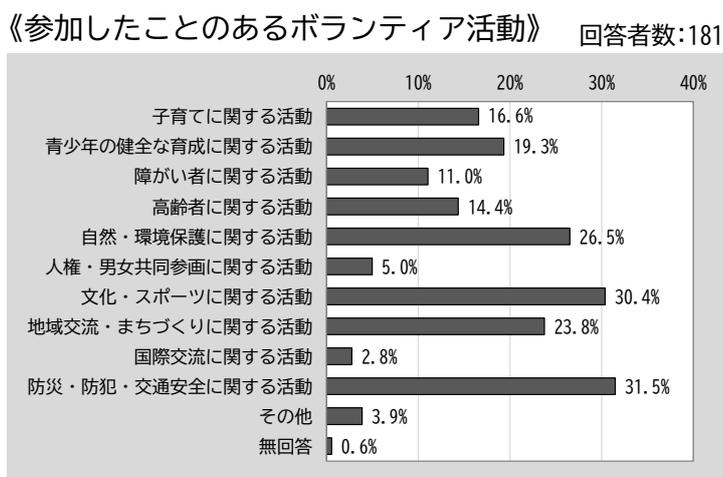
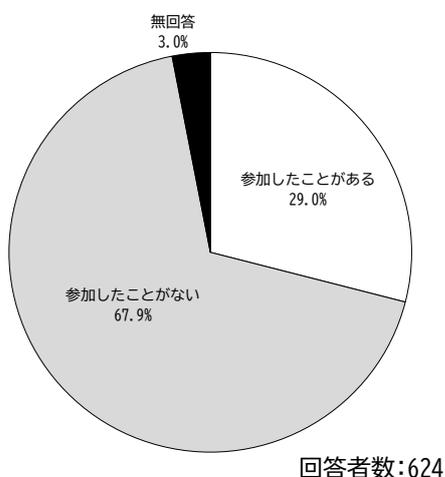


②ボランティア活動への参加状況

ボランティア活動に参加したことがあるかについては、「参加したことがある」が29.0%、「参加したことがない」が67.9%となっています。

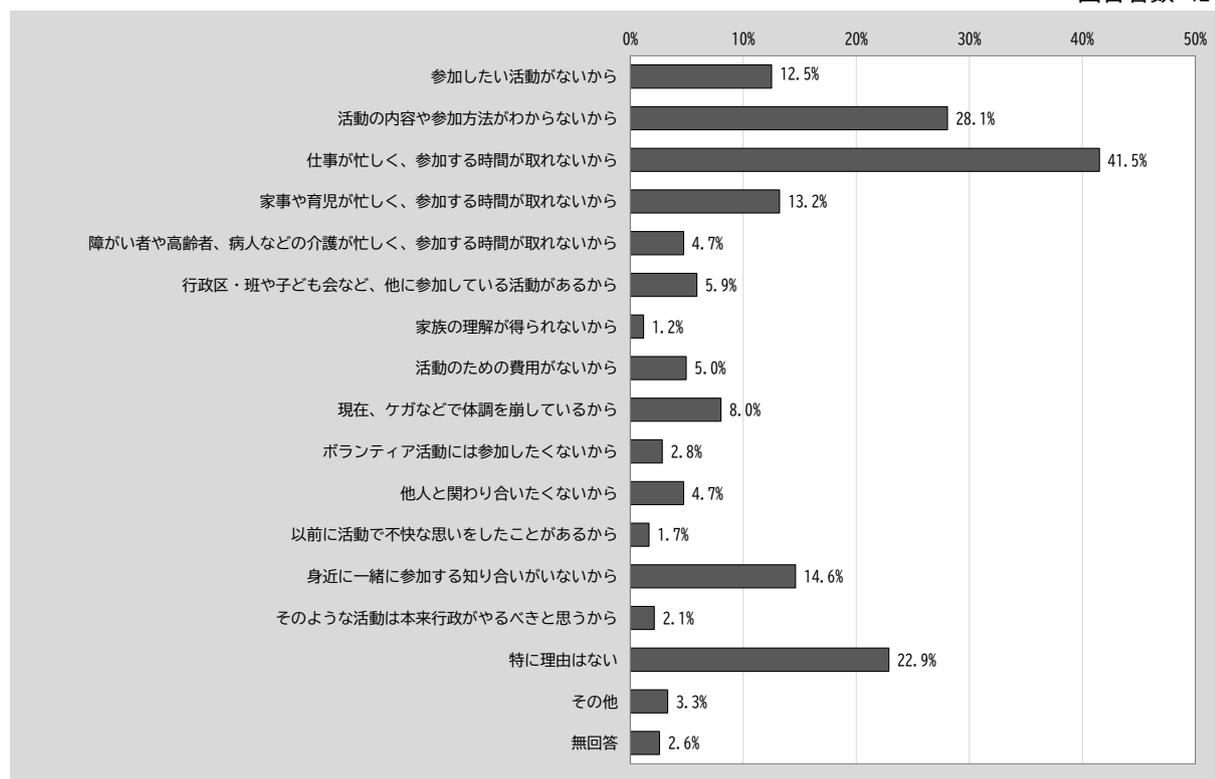
参加が多いボランティア活動は「防災・防犯・交通安全に関する活動」が31.5%と最も多く、次いで「文化・スポーツに関する活動」が30.4%、「自然・環境保護に関する活動」が26.5%となっています。

また、参加したことがない理由としては、「仕事が忙しく、参加する時間が取れないから」が41.5%と最も多く、次いで「活動の内容や参加方法がわからないから」が28.1%、「特に理由はない」が22.9%となっています。



《活動に参加したことがない理由》

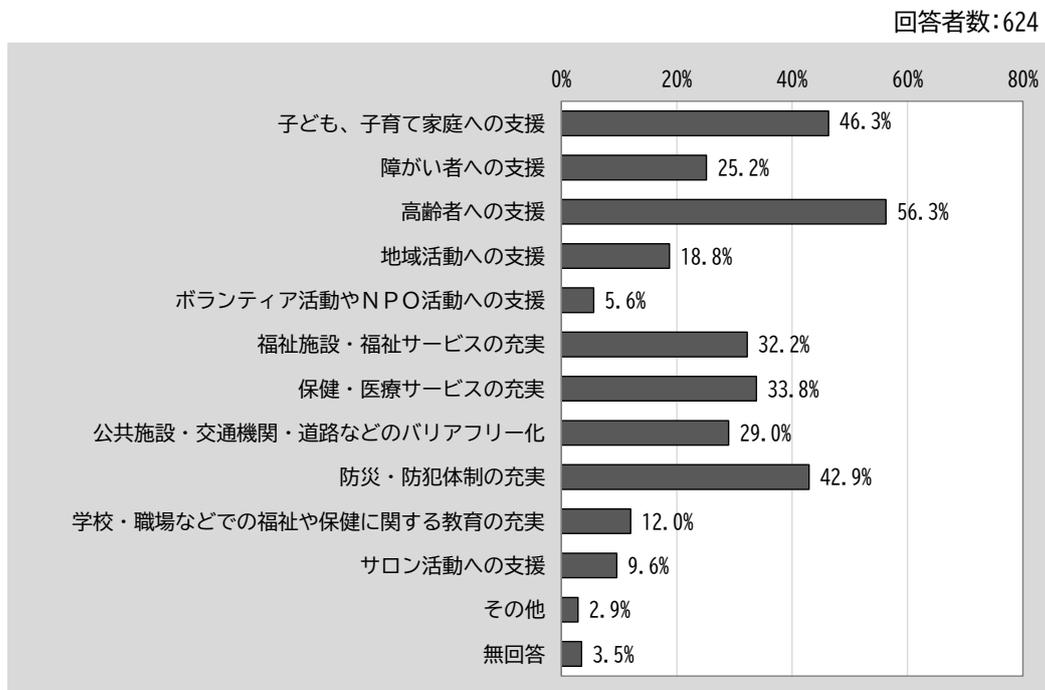
回答者数: 424



(3) 境町について

①誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために必要な取組

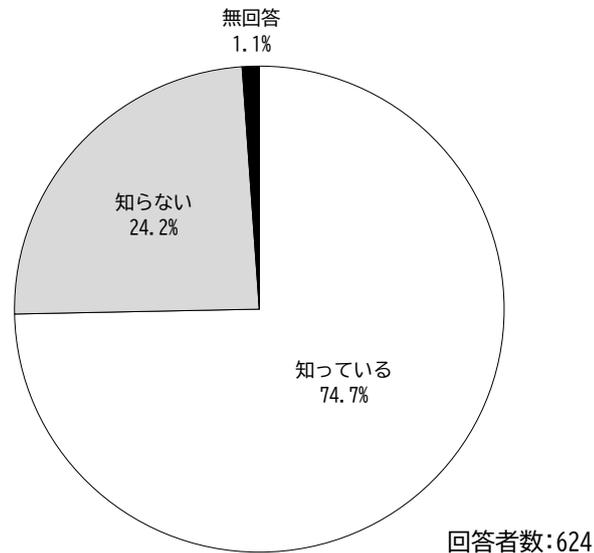
境町で安心して生活していくための取り組みについては、「高齢者への支援（介護・生活支援・生きがい対策など）」が56.3%と最も多く、次いで「子ども、子育て家庭への支援（相談支援・生活支援・保育サービスの充実など）」が46.3%、「防災・防犯体制の充実」が42.9%となっています。



(4) 災害時について

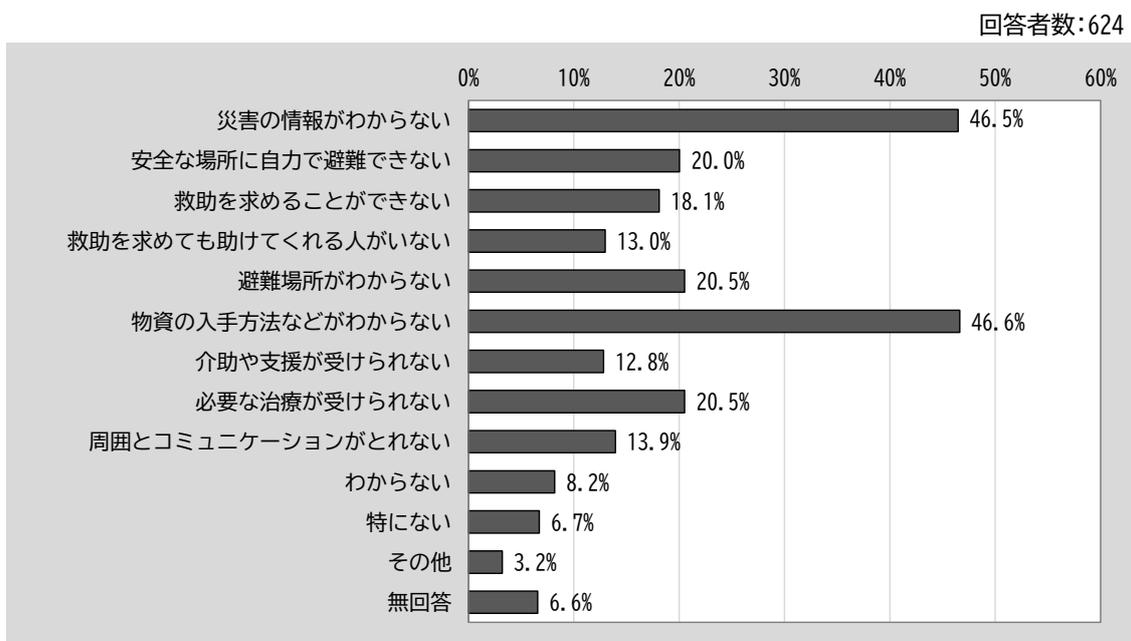
①地震、水害などの災害時の避難場所

地震、水害などの災害が発生したときの避難場所については、「知っている」が 74.7%、「知らない」が 24.2%となっています。



②地震、水害などの災害時に困ること

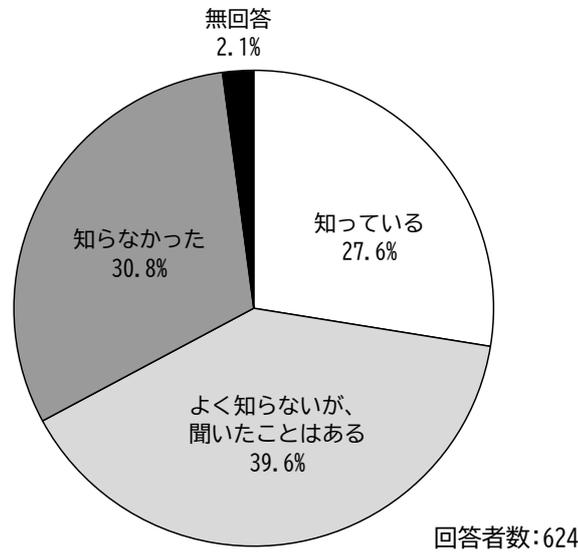
地震、水害などの災害が発生した時に困ることについては、「物資の入手方法などがわからない」が 46.6%と最も多く、次いで「災害の情報がわからない」が 46.5%、「避難場所がわからない」、「必要な治療が受けられない」がともに 20.5%となっています。



(5) 成年後見制度について

①「成年後見制度」の認知度

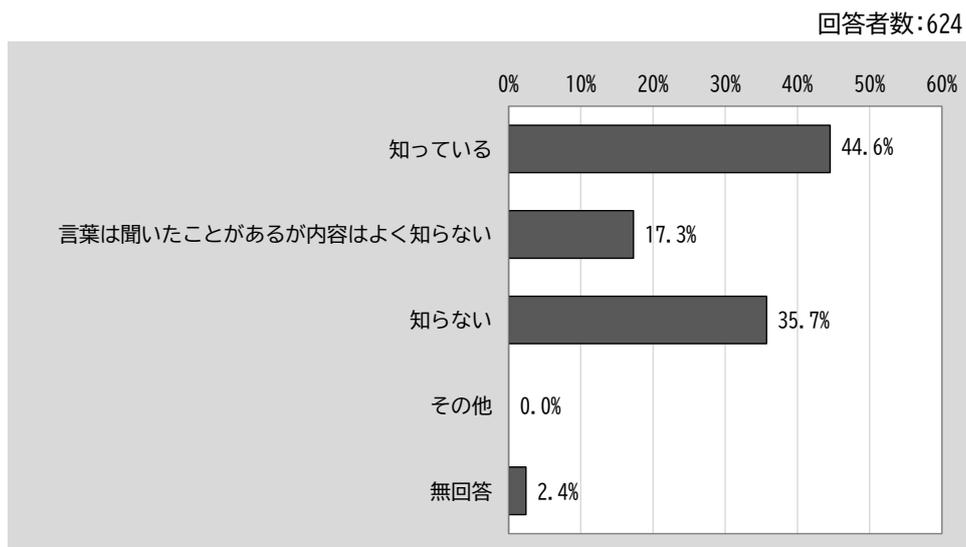
成年後見制度については、「よく知らないが、聞いたことはある」が39.6%と最も多く、次いで「知らなかった」が30.8%、「知っている」が27.6%となっています。



(6) ケアラーについて

①「ヤングケアラー」の認知度

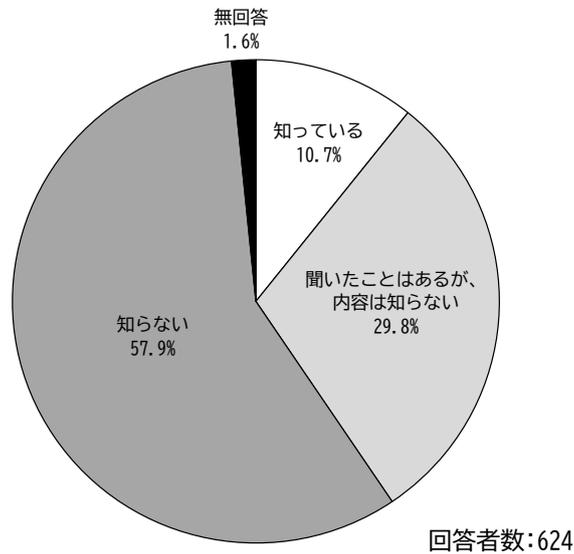
ヤングケアラーについては、「知っている」が44.6%と最も多く、次いで「知らない」が35.7%、「言葉は聞いたことがあるが内容はよく知らない」が17.3%となっています。



(7) 再犯防止について

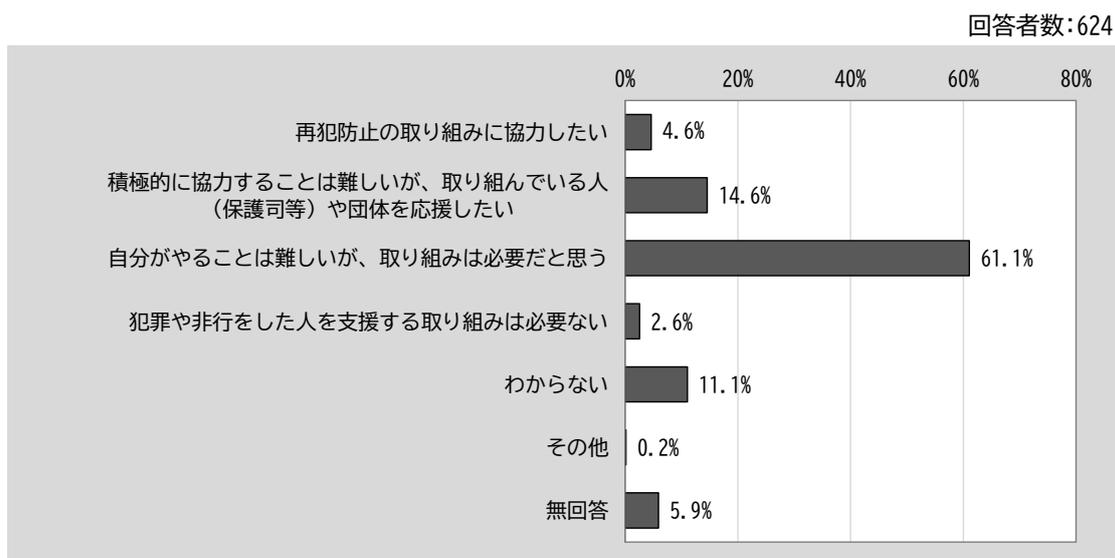
①「社会を明るくする運動」という言葉や内容の認知度

「社会を明るくする運動」という言葉や内容については、「知らない」が57.9%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が29.8%、「知っている」が10.7%となっています。



②再犯防止の取り組みについての考え方

再犯防止の取り組みの考え方については、「自分がやることは難しいが、取り組みは必要だと思う」が61.1%と最も多く、次いで「積極的に協力することは難しいが、取り組んでいる人（保護司等）や団体を応援したい」が14.6%、「わからない」が11.1%となっています。

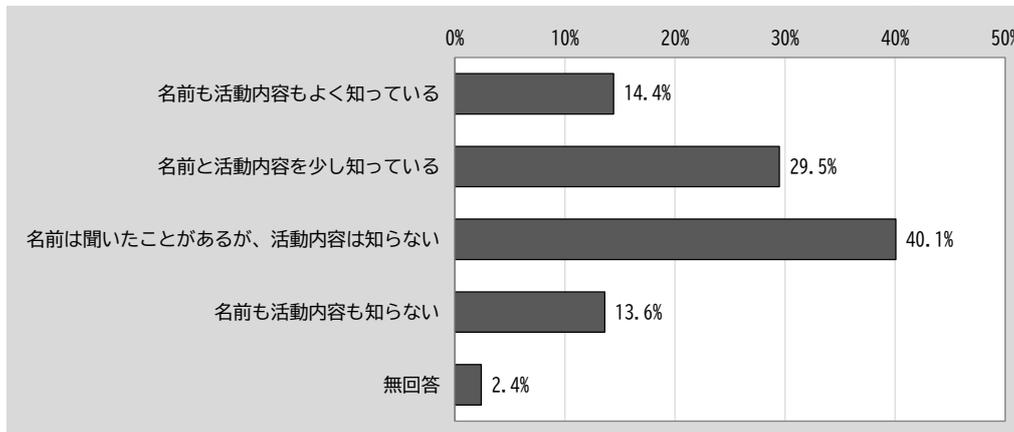


(8) 境町社会福祉協議会について

①「境町社会福祉協議会」の認知度

境町社会福祉協議会については、「名前も活動もよく知っている (14.4%)」、「名前と活動内容を少し知っている (29.5%)」を合わせた「知っている (計)」が 43.9%、「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない (40.1%)」、「名前も活動内容も知らない (13.6%)」を合わせた「知らない (計)」が 53.7%となっています。

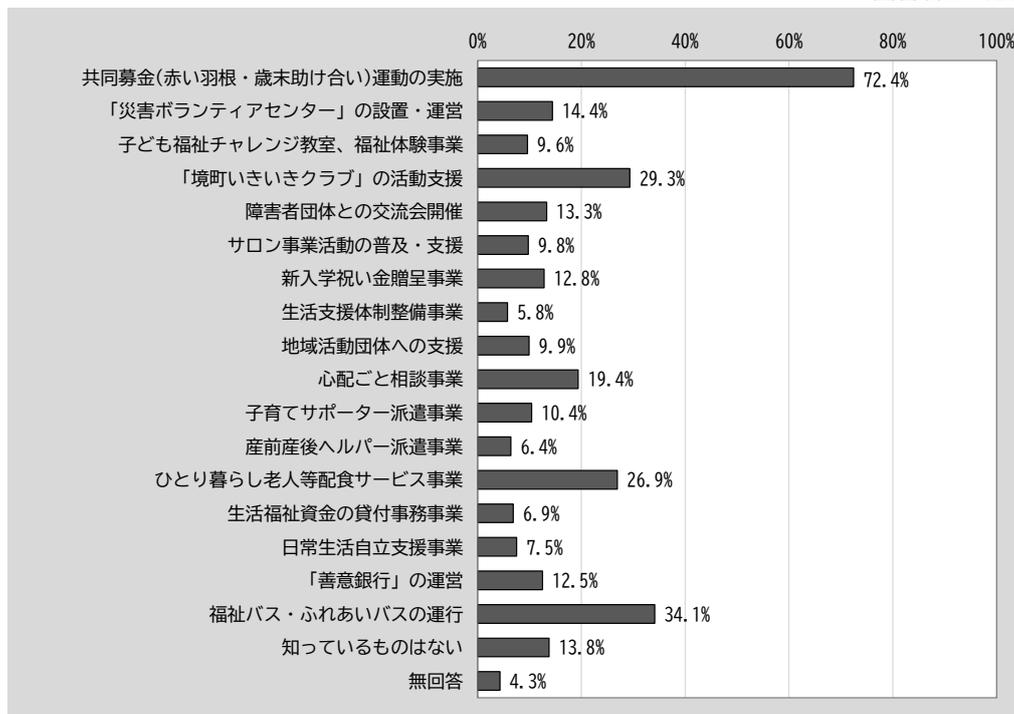
回答者数:624



②境町社会福祉協議会が実施している事業の認知度

境町社会福祉協議会が実施している主な事業を知っているかについては、「共同募金(赤い羽根・歳末助け合い)運動の実施」が 72.4%と最も多く、次いで「福祉バス・ふれあいバスの運行」が 34.1%、「『境町いきいきクラブ』の活動支援」が 29.3%となっています。

回答者数:624



3 地域福祉団体ヒアリング調査の結果

地域の現状や課題、地域を良くするための意見を伺い、計画策定の参考にするため、福祉関係団体ヒアリング（アンケート形式）を行いました。

調査対象団体：6団体

調査期間：令和4年（2022年）8月26日（金）～令和4年（2022年）9月26日（月）

多くのご意見をいただきましたが、ご意見と課題を以下にまとめます。

（1）団体運営における課題について

《団体を運営するにあたっての課題・問題点・改善点》

- ・新規会員（特に若い世代）がなかなか集まらない。仮に会員（手話に興味を持つ）に加入しても定着が難しい。
- ・会員が高齢者になってきていますので、若い方の参加を希望しています。
- ・会員の高齢化や体調面を考慮しながら運営をしているため、平時やコロナ禍においても活動に制限が出ている。
- ・新規加入者の確保が難しい。広報や周知活動に課題がある。
- ・会員が増えてくれること。学校区での福祉体験がなくなったこと。会員個人のスキルアップ。
- ・コロナ禍による活動自粛から今後どのように再開していくべきか、その時期や活動方法について決定していくべきか、その時期や活動方法について決定していくことが現在の課題です。
- ・常に住民生活に寄り添って展開される民生委員活動は多岐にわたっている。社会的孤立、生活困窮者問題等新たな福祉課題への対応。

《地域や行政、社協との連携に関する課題・問題点・改善点》

- ・社協での定例会（月1回第4土曜日）は実施中で、協力いただいています。多くの行政の方、一般の方に点字というものを知っていただきたいと思います。
- ・日頃から行政や社協様にはお世話になっており、連携もとれていると感じています。
- ・少子高齢化、単身世帯の増加、個人や家族を巡る社会環境の変容、生活保護の増加、ニート、ひきこもり、といった課題を抱えた人々の増加、これらは高齢や障害といった分野別に整備された従来の福祉サービスではとらえきれない新たな福祉課題である。地域住民に最も密接な立場である民生委員と関係機関との連携が更に強く求められている。

(2) 地域福祉に関する課題について

《地域での支えあいを必要としている方の状況》

- ・60～70代半ばの間こえない人達は、自立し生活している場合が多いが、高齢者（80代～）は手話も出来ないケースがある。
- ・地域においては、特に災害（事故、火災、事件等を含む）発生時の支援が必要である。（現状の防災無線は役に立たない）
- ・会員中には個々での活動や、他のボランティア団体でも活躍しています。
- ・塾の送迎など出来ない。幼児の預かり（買い物、用事）など。
- ・コロナ禍による活動自粛のため、会員やその他障害のある方々の個々の課題を直接聞く機会が少ないため、わかりにくくなっています。
- ・行政区での付き合いが出来なくなったので班から抜ける人が多い。
- ・通院、買い物、ゴミ出し。

《地域での支えあいを必要としている方への取組内容》

- ・サークル会員である間こえない人達には、メールやLINEを使い、情報の伝達などを行うこともある。
- ・取組は実施していないが、このようなことがあった場合には、必要なサービスに繋がるよう関係機関に相談するなどの対応をしたいと考えている。
- ・子育てサポーターの利用など。又、地域住民などの協力。
- ・一堂に会する機会を再び待つ。（適切な時期を待って）それが難しい場合には、SNS等を利用した情報交換の場が持てるようになると良い。

(3) 地域福祉推進における団体の役割と必要な支援について

《地域福祉の推進に向けて、今後果たしていきたい役割》

- ・障害のある人たちへの理解を広く知ってもらうため、イベントなどの時に出来る範囲でお手伝いしたい。
- ・町民祭。活動の一環として子育て支援を取り入れ。その中で情操教育につながるような知識と一緒に学んでいきたいです。(工作・その他)
- ・会員相互の親睦を深めて社会から孤立を防止することや、地域社会において健常者の障害者への理解を深めること。
- ・点字ボランティアとしては、絵本の点訳を今の目標としています。又、タイプライター(点字)の活用をしてスキルアップしていきたいと思います。
- ・障害児者とその保護者の困り感に寄り添い、声を行政やその他関係機関に届けるパイプ役。
- ・地域の困窮者に対しての関係機関との連絡調整の徹底。

《地域福祉の推進に向けて、現在連携している団体、組織》

- ・現状、連携している地域団体は特になし。上部団体としての境町ボラ連に加入している。
- ・スキップ(子育て支援)、チャレンジ茨城(挨拶運動)、支援学校(県立)。
- ・茨城県身体障害者福祉協議会、茨城県身体障害者福祉団体連合会、境町社会福祉協議会、境町役場社会福祉課。
- ・学校での福祉体験では手話サークルの方と一緒にクラス交代で体験していただきました。
- ・境町身体障害者福祉協議会、境町社会福祉協議会、NPO法人、メダカの会等。
- ・行政機関、社会福祉協議会。

《地域福祉の推進に向けて、今後連携していきたい団体、組織/取り組みたいこと》

- ・民生委員。
- ・福祉関係全体の団体の方との情報共有が必要と思います。全体的に月1回等の集まりか半年に1度など。

《地域福祉の推進に向けて、必要な支援》

- ・情報提供、他団体等との連携及びネットワーク構築に向けた支援。
- ・活動費、事業費についての支援。
- ・スタッフ等の意識の高揚、改革につながる支援。
- ・行政、社協等からの支援。
- ・施設、設備改善のための支援。
- ・団体活動への地域や地域住民の受入や意識の面での支援。
- ・マンパワー、人材についての支援。
- ・その他(手話奉仕員養成講座等の開催)

(4) 地域福祉推進の施策及び町・社協への意見・要望・提案について

《今後重点的に取り組むべき福祉施策》

- ・ボランティア育成のための施策、事業の推進。
- ・A型、B型事業所をはじめとした障害者の働く場の確保、整備。(聞こえない人達の働く場が少ない)
- ・超高齢社会に向け、グループホームなどの整備を進める。
- ・子育て世代と同等かそれ以上の障害者施策、支援。
- ・身体障害児者に対する訪問系サービスが、社協の事業の一部民営化に伴い、なくなってしまった。利用者は少ないかもしれないが、資源がないため利用できないという方もいるので、ぜひ何らかの形で復活させてもらいたい。

《境町及び社協への意見・要望・提案等》

- ・聞こえない人達の参加がある、なしに関わらず、町、社協等が行うイベントでの手話通訳者の配置。(広く一般に手話の必要性を啓発するため)
- ・障害者が当事者として意見を述べる機会を増やしてほしい。
- ・町、社協が主体となった手話講座等の開催。(半年とか1年以上の定期講座)

(5) 自由記述（テーマ/内容）

- ・情報格差の是正/デジタル・デバイド以前の問題として、高齢者や聞こえない人達の情報の入手手段として早急に「文字表示機能付き個別受信機」の整備をお願いしたい。
- ・町への要望/公的機関（役所、警察、消防、病院など）への手話通訳士（又は手話対応ができる職員）の配置。
- ・青少年の育成、交流/境町少年少女合唱団の結成、情操教育の一環として伝統芸能に触れる、挨拶やふれあいの大切さを学ぶ。
- ・自動運転バスのコース延長/現在、稲尾まではバスが通っていないので、全く利用できていません。コースが延長されるとうれしいです。
- ・新築アパートの入居状況/長井戸に新築アパートがたくさん建ちましたが空き室が多いようです。有効な活用方法はないでしょうか。
- ・特別支援学校高等部卒業生の進路先（福祉的就職）/卒業後は町外に通所（入所）するしかないのが現状です。近年、特に生活介護の施設が近隣でも不足しており、町内にできると大変有意義であると思います。
- ・令和4年12月1日付で民生委員の一斉改選が行われます。前回の改選では全国23万人の委員のうち3分の1が交代。割合では50歳代が12.4%、70歳代が30.3%、在任期間をみると全体の3分の2が2期まででした。委員を長く続けることが難しい状況が明らかであり、民生委員のなり手不足の解消は全国的な課題である。当町においても同じ傾向、特に女性委員が少ない。
- ・民生委員候補者の推薦について/輪番制で委員が推薦されるため、1期ごとに交代してしまう。現在の委員に意欲があっても推薦されない。推薦された人が十分な委員活動について説明を受けていない。早期に退任してしまう。
- ・境町の民生委員/女性委員を50%代に。2期以上はやってほしい。

4 本町の地域福祉の課題

(1) 着実に高齢化が進行し、高齢単身世帯が増加

少子高齢化の進行に伴い、高齢者世帯及びひとり暮らし高齢者世帯が着実に増加しています。同時に、地域での人と人とのつながりが希薄化し、当然のこととして行われてきた相互扶助機能も低下していると言われてしています。

今後、高齢化が一層進み、高齢者福祉や高齢者の社会参加に対するニーズの増加が見込まれることから、高齢者福祉をはじめとする福祉全般に対する住民の理解を深めることが求められます。

また、認知症への地域住民の理解など、地域の高齢者が安心して暮らせるように意識の向上を図ることも重要となっています。

(2) 地域福祉を支える担い手の育成・確保

地域の担い手が高齢化する一方で、定年退職後のシニア世代や、若い世代が地域福祉の担い手として十分参画できていない現状があります。こうした人たちが地域福祉の担い手として、気軽に参画できるきっかけをつくり、それを通じて、地域福祉活動のキーパーソンとなる人を発掘・育成することが必要です。

(3) 地域コミュニティの維持と強化

少子高齢化が進行する中で、地域での住民同士のつながりが薄れ、高齢者だけではなく若年層にも社会的孤立が広がってきており、地域コミュニティを維持するための取組が求められます。

つながりの希薄化や社会的孤立は、近隣の助けあいの輪から外れてしまう問題、孤立死、消費者契約のトラブル、生活困窮などと結びつき、深刻な社会問題となってしまいます。地域コミュニティに求められる最小限の機能が維持できるよう、コミュニティの活性化対策、強化対策を進める必要があります。

(4) 包括的な相談支援体制の充実と複合化・複雑化するニーズへの対応

現在、高齢者世帯や単身世帯の増加、社会的孤立などの影響により、地域住民の生活上の課題は、様々な分野の課題が絡み合って「複雑化」し、また、個人や世帯において複数の分野にまたがる課題を抱えるなど「複合化」しています。

各分野が相互に連携しながら、地域住民の複雑化・複合化したニーズに対応する包括的な支援体制を構築し、制度の狭間を作らない地域づくりを推進することが求められます。